岐阜大学客員教授 早川三根夫氏

特別講義『学校経営専門職としての学び』を実施しました

令和7年 11 月 10 日(月)に、岐阜大学教職大学院学校管理職養成コースにおいて、客員教授の早川三根夫氏の特別講義が開催されました。

学校管理職養成コースでは、岐阜県教育委員会から派遣される現職教員を対象に、学校経営専門職のための大学院教育を行っています。そのためのカリキュラムの一環として、大学院での学校経営学等の講義と教育行政機関や学校における学校管理職臨床実習があります。

今回は、「学校管理職臨床実習」の 1 コマとして、また、講義「教育政策の理論と実践」とのコラボ授業として、特別講義を行いました。早川先生は、岐阜大学教職大学院と岐阜県教育委員会が連携したスクールリーダー養成の仕組みを作ってくださった方で、 前岐阜市教育長として多大な実績を残されるとともに、中央教育審議会の専門委員としてもご活躍され、現在は文部科学省の委員をなさっています。毎年、高度な見識をもとに、現職派遣院生に講義をしていただいておりますが、今回は、教育行政のトップリーダーの視点から、学校経営専門職に必要とされるコンピテンシーについて解説してくださいました。 とくに、①大学院設立の経緯と意義、②心理的安全性の確立、③安心できない学校と安心できる学校、などの話題を取り上げ、院生と対話しながら、学校管理職がどのように思考し、行動すればよいかを語っていただきました。また、子どもや保護者といかに心の通う信頼関係を構築すべきか、という視点から院生の心に染み入る話をいただきました。

岐阜県の未来を担う院生からは、学校管理職としての責任・覚悟をはじめとした多くの学びを得ることができた、という感想が多く寄せられ、貴重な学修の機会となりました。